

## 拡張語彙力を育てる

田中茂範

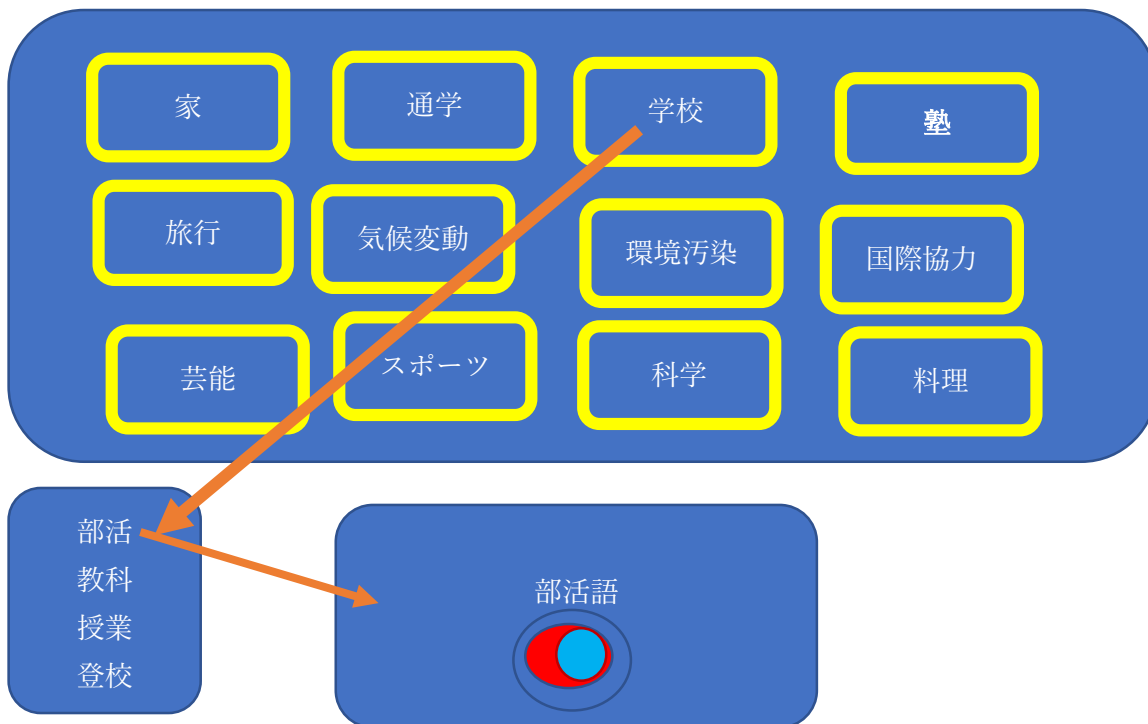
基本語力が語彙力の基盤であることは、これまで繰り返し述べてきた通りです。しかし、いろいろな話題や場面について語る単語を知らなければ表現力は限定されます。例えば、court of justice—trial — proceedings — lawsuit — judge の単語をリストすれば「裁判」を連想するでしょう。言い換えれば、以下のような単語を知らなければ、裁判について語るのは困難です。

裁判所 court of justice ・裁判 trial (主に刑事裁判) ・法廷 court ・正義 justice ・裁判沙汰(ざた) (court) proceedings ・訴訟、告訴 lawsuit ・裁判官 judge \* 裁判所の裁判官全員を指すときには、the court または the bench という。 ・裁判長 chief justice ・検察官、検事 prosecutor ・弁護士助手/パラリーガル paralegal / legal assistant ・法律の専門家 jurist ・起訴 prosecution / indictment ・傍聴人 public observers ・告訴 accusation, litigation ・被告人 defendant (主に民事訴訟で) / accused (主に刑事訴訟で) ・証人喚問 witness summons ・証言 testimony ・偽証 perjury ・虚偽 intentional lying ・冤罪 false accusation ・罪状認否 arraignment ・未必の故意 willful negligence ・判決 judgment ・刑 penalty ・控訴、上告 appeal ・判事 judge ・地方検事 district attorney (=D.A.) ・弁護士 lawyer, attorney ・被告席 dock ・証人 (eye)witness ・告訴(民事の) complaint ・示談 private settlement

裁判は拡張語彙の中の1つの話題領域です。ほかにも「株」「軍事」「野球」「病院」「学校」「電車」などその規模はそれぞれですが、さまざまな話題領域あるいは場面領域というものがあります。拡張語彙力の指導のために準備したいのは「領域マップ」というものです。生徒の関心とか教育的配慮から場面・話題領域を選定します。領域の選定には、学年や教科目標なども考慮に入れます。領域マップはいわばハイパーテキストのような形で整理するもので、外枠は、「学校」「通学」「映画」「社会問題」「気候変動」「国際協力」など、場面と領域の両方を考えて取り扱う内容をマップとして示します。例えば、場面領域として学校に注目した場合、「部活、教科、授業、放課後の活動」などさらに分類が可能です。そして、ここで分類した、部活や教科を取り上げた場合、学習レベルを考慮して、部活についてはいく

つの表現を学習対象にするかを決め、レベル1語、レベル2語、レベル3語のように同心円状に語彙データを整理しておきます。

### 語彙領域マップ：日常編と社会編



ここで問題になるのは、例えば「学校」という場面で「部活」を取り上げた場合、部活名だけでなく、部活に関する形容詞や動詞あるいは連語なども整理して表現リストに加えるということです。

**名詞表現ネットワーク**

日本の学校でのいろいろな部活動

● 運動部

- ・軟式野球部 rubber ball baseball team
- ・ハンドボール部 handball team
- ・バスケットボール部 basketball team
- ・バドミントン部 badminton club
- ・バレーボール部 volleyball team
- ・ラグビー部 rugby club
- ・卓球部 table tennis club
- ・陸上部 track and field team
- ・弓道部 archery club
- ・剣道部 kendo / Japanese fencing club
- ・硬式テニス部 tennis club
- ・硬式野球部 baseball club
- ・サッカー部 soccer team
- ・柔道部 judo club
- ・水泳部 swimming club
- ・ソフトテニス部 soft tennis club
- ・ソフトボール部 softball club
- ・器械体操部 gymnastics club

● 文化部

- ・合唱部 chorus club
- ・家庭科部 home economics / domestic science club
- ・国際交流部 international exchange club
- ・吹奏楽部 brass band
- ・太鼓(和太鼓)部 wadaiko / Japanese drumming club
- ・美術部 art club
- ・文芸部 literature club

● その他

- ・部活動見学 club activity observation
- ・部活動説明会 club activity guidance
- ・部活動入部申込書 application form to join a school club
- ・仮入部 temporary club membership
- ・体験入部 school club trial session for potential members
- ・クラブ活動 club activities
- ・部活動なし no club activities
- ・帰宅部 "go-home club"
- ※「帰宅部」は冗談で使う。
- ・クラブ活動費 club activity fees
- ・部活動の顧問 club activity advisor
- ・クラブ・部の部長 captain (体育部), president (文化部)

そして、学習レベルを配慮して、3つのレベルで語彙量を調整するといいいでしょう。

これが、われわれがいう拡張語彙というものです。**拡張語彙力は「領域+語彙サイズ」(thematic range + vocabulary size)として定義**します。領域には、場面領域と話題領域があります。ここでいう場面は、家庭、学校(仕事場)、公共、あるいは冠婚葬祭の場面にわけることができるでしょう。話題は、多種多様なものがありますが、肝心なことは、話題の幅(range)を目標として示すことです。すると、イメージ的には、各教室あるいは各学年が目指す拡張語

彙力の習得目標として、大きな領域マップを生徒と共有し、教師も生徒も現時点でどの領域をどの程度カバーしたかというカバー率を可視化することができます。

### ● 拡張語彙力養成エクササイズ

「どの領域にどれぐらいの語彙サイズがあるか」が拡張語彙力の定義だとすると、それぞれの領域内の語彙をどう関連づけるかが語彙力養成の鍵となります。言い換えれば、ある領域に関する単語のリストだけでは、語彙の関連づけとはならないということです。**領域内の語彙を関連づけることを「ネットワーキング (networking)」**と呼びます。

ネットワーキングの仕方はいろいろ考えられます。われわれが推奨したいネットワーキングのひとつは **EIJ ネットワーキング**と呼ぶものです。EIJ は English in Japanese の略語で、**日本語を地の文としてストーリーを作り、その中に英語の表現を埋め込む**というやり方です。ここでいう「表現」は、単語だけに限定されません。例えば、以下は「家」の場面で「テレビ・DVD をみる」状況の EIJ ネットワーキングのサンプルです。

### ● 状況：テレビをみる、DVD をみる

テレビは多くの人にとってくつろぎの時間です。ここでテレビ関連の表現を整理しておきましょう。「テレビをつける」は、turn on the TV が一番よく使われます。昔のテレビはスイッチを回してオンとオフにするということに由来する表現です。「リモコンを使う」は use the remote control といいます。「リモコン」は remote control の和製英語です。「リモコンでチャンネルを変える」は change channels with the remote control ですね。音量を上げたり、下げたりするときは、turn up the volume あるいは turn down the volume といいます。「1チャンネルにする」は turn to Channel 1 と turn という動詞を今でも使います。昔のテレビはチャンネルを文字通り回していたことの名残です。

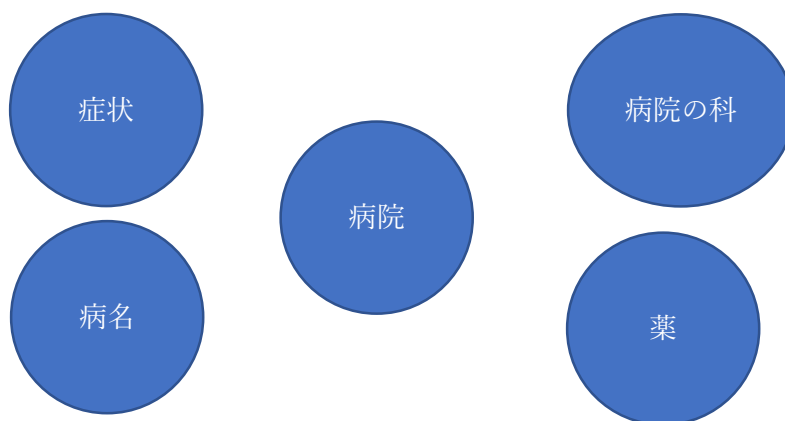
「録画する」は record ですが、「野球の試合の録画を予約する」だと set the timer to record a baseball game という言い方をします。「お気に入りの報道番組をみる」とか「天気予報をみる」とか「日曜日の連続ドラマをみる」は、それぞれ、watch one's favorite news program、watch the weather forecast、そして watch the Sunday drama series といいます。動詞は watch です。「録画しておいた番組をみる」も watch (the) recorded programs といいます。「テレビにかじりつく」という日本語表現に対して、英語ではおもしろい言い方があります。be glued to the TV という言い方です。glue は「糊でくっつける」という意味の動詞です。「くぎ付け（糊付け）になる」といった感じですね。「テレビをみて時間をつぶす」もおもしろい表現があり、kill time watching TV といいます。pass the time watching TV でも OK で

す。「テレビをつけっぱなしにする」はどうでしょうか。日本語からはむずかしそうですが、英語では leave the TV on といいます。「テレビをオンの状態にしたままにする」ということで納得ですね。なお、「テレビ受信機（電気製品）」が話題の場合は the TV で、「テレビ番組」が話題になる場合は TV です。

こんどは、DVD 関連の表現をまとめておきましょう。まず、「DVD を借りる」は rent a DVD です。borrow は「無料で借りる」ということなので、有料の DVD は rent といいます。この rent は状況によって「借りる」と「貸す」のいずれかの意味になります。「明日が返却日だ」という場合は、due を使い、This DVD is due tomorrow. といいます。「期日に返す」というときは、return the DVD on the due date といいます。一方、「返却日を3日過ぎている」だと This DVD is three days overdue. と overdue という言い方をします。そこで「延滞料金を払う」は pay an overdue fee となります。DVD を「巻き戻したり、早送りする」こともあります。「巻き戻す」ときは rewind the DVD で、「早送り」のときは fast-forward the DVD と言います。fast-forward は「早く前に送る」ということで、感じがでていますね。

このように、日常の場면을想起しながらストーリーを作成し、そこに覚たい英語表現を埋め込むことで、語彙のネットワークを行うことができます。場面に現実味があること、そのまま日常を語る際に英語表現を使いやすいこと、文脈が日本語で示されているので覚えやすいということ、などを挙げるすることができます。学習法としては、自分で音読する、音読しながら英語表現だけをノートに抜き出す、抜き出した英語表現のいくつかを使って自分で英語のストーリーを作ってみる、といった方法が有効です。

名詞表現をまとめて覚たいという際には、**Word Map Networking** が有効です。例えば、「病院」という場面を取り上げた際に、「症状」「病院の科と医師」「病名」「薬」などを使ったワードマップを容易に作ることができます。



そして、以下のような「症状」「病院の科」などに関する表現をまとめてしまうという方法です。

## 症状

・頭痛 ・肩こり stiff shoulders ・首のこり stiff neck ・倦怠感 fatigue ・下痢 diarrhea ・湿疹 eczema / itchy rash ・しびれ palsy ・咳 coughing ・脱臼 ・できもの boil ・動悸 palpitation ・はきけ nausea / vomiting ・腫れ puffiness / swelling ・貧血 anemia ・腹痛、腹部の痛み abdominal pain / stomachache ・便秘 constipation ・めまい dizziness ・腰痛 back pain / backache

## 病院の科と医師

・眼科 ophthalmology (「眼科医」 ophthalmologist または eye doctor) ・外科 surgery (「外科医」 surgeon) ・産科 obstetrics (「産科医」 obstetrician) ・歯科 dentistry (「歯科医」 dentist) ・耳鼻咽喉科 otolaryngology (「耳鼻咽喉科医」 otolaryngologist / ear, nose and throat doctor [ENT]) ・小児科 pediatrics (「小児科医」 pediatrician) ・整形外科 orthopedics (「整形外科医」 orthopedist / orthopedic surgeon) ・精神科 psychiatry (「精神科医」 psychiatrist) ・内科 internal medicine (「内科医」 physician) ・泌尿器科 urology (「泌尿器科医」 urologist) ・皮膚科 dermatology (「皮膚科医」 dermatologist / skin specialist; skin doctor) ・婦人科 gynecology (「婦人科医」 gynecologist)

どの程度の語彙を取り上げるかは、関心の所在と学習者のレベルによって異なります。これは基本的にリスト形式ですが、病院という場面の中で何か所かに焦点を当てて、関連する語彙を整理することができるという長所があります。「学校」という場面でも「施設」「教科」「部活」「旅行」「持ち物」などワードマップ方式のネットワークで扱うことができます。

## ● 日本語を使って、英語の語句を覚える

上では、症状に関する日英語表現をリストしました。症状も関連したものを整理していけば、よりネットワークらしさが出てくるでしょう。しかし、語句を覚え、使えるようにするということからすれば、EIJ方式で、日本語を使って、症状に関する「ストーリー」を作成すると効果的です。以下はその例です。

症状を訴える際の基本形は、I have...で、他にも be あるいは feel を使った表現があります。I have …の形を使った表現のいくつかを見ていきましょう。「食欲がまったくありません」だと I have no appetite. となり、「あまり食欲がない」といいたいときは I have a poor appetite.

と表現します。「鼻づまり」は I have a stuffy nose. といいますが、この stuffy を部屋などに応用して This room is stuffy. といえば「空気が淀んで息が詰まりそうな部屋」という意味合いです。「鼻水が出る」だと I have a runny nose. となり、この runny は水や液体などが漏れて流れているときに使います。「頭痛がする」は I have a headache. ですが、頭痛の種類を表現する際には形容詞を使います。「ひどい頭痛」の場合は I have a terrible/bad headache. となり、「軽い頭痛」なら I have a slight headache. といいますが。「ずきずきするような頭痛」だと a throbbing headache で、「頭が割れるような痛み」だと a splitting headache、そして「しつこい痛み」だと a persistent headache といいますが。ほかにも「熱がある」だと I have a fever、「寒気がする」だと I have a chill [chills] と I have … はいろいろな症状を表現するのに使うことができます。ちなみに、「お腹が痛い」は I have a stomachache. ですが、「胃に鈍い痛みがある」とか「胃に鋭い痛みがある」だと、それぞれ I have a dull pain in my stomach、I have a sharp pain in my stomach. と a pain in one's stomach の形で表現します。「お腹をこわしました」と表現したいところで I broke my stomach. と言った学生がいましたが、これは間違い。「お腹をこわした」は upset を使って、I have an upset stomach. あるいは I have a stomach upset. と表現します。

ここでは地の文が日本語で注目したい英語をハイライトする形になるため、語句の有意味な関連づけを行うのには有効な方法です。

### ● ボキャチェーンの発想

次に、ボキャブラリーチェーン (vocabulary chain) というやり方もあります。ここでは略して「ボキャチェーン」と呼びます。これは、複数の語彙を何らかの観点から繋いでいくという方法で、一回に学習したいチェーンの長さを決め、そして、何本のチェーンを学習したかを「競う」というものです。これは、観点の決め方次第でいろいろなバリエーションが考えられます。例えば「オノマトペ」のように音が意味を連想するような音象徴を観点にとると、以下のようなチェーンが作れるでしょう。

バンと音がする　ゴロゴロ鳴る　カサカサ音がする　キラキラ光る　ドスンと音がする



もちろん、「星座」「色」「食べ物」「食材」「野球」など多種多様な観点からボキャチェーンを作ることができます。



生徒が自ら、ボキャチェーンを作るという課題を与えることも大切です。ボキャチェーンを使ってどういう学習が可能かということですが、まずは、表現を1つずつ、しっかりと音読することです。できれば7回以上音読し、表現連鎖を覚えてしまいたいところです。

領域といっても話題境域ではありません。概念領域もボキャチェーンの観点の1つです。動詞や形容詞の学習においては概念領域のボキャチェーンは有効です。例えば、食べ物の感想を述べる場面で、以下のようなボキャチェーンがあれば便利です。

great → tasty → scrumptious → not so good → awful

要は、自分が興味のある観点から自由に単語を連鎖化していくということです。そして、場面を描きながら、This is great. I love it. Can I have another? のようにボキャチェーンの単語を使ってみるということです。

単語はバラバラに覚えても、なかなか語彙力にはなりません。機械的な暗記は、一時的な効果は期待できても、中長期的には「忘れてしまった」という現象が起こります。また、記憶に留まっていたとしてもなかなかそれを想起し、英語表現で使用することに困難を感じるということもよく見られる現象です。単語学習においては、**有意味学習が必須**です。幼児の言語習得においても、場面場面で関連づけて表現を学習していくといわれます。関連づけることを筆者らはネットワークングと呼んでいます。基本語力の育成には**コア**という**概念**が**有効**であると述べました。拡張語力の育成には**ネットワークング**が**鍵**になるというのがわれわれの確信です。